

(37) 林野面積割合 45.6% (総面積当たり)

指標の説明

「林野面積割合」とは、総面積に対する林野面積（森林面積と森林以外の草生地面積の合計）の割合で、林業経営や森林資源の現状把握など、森林行政に係る指標として用いられる。

指標の算出根拠 基礎データの資料

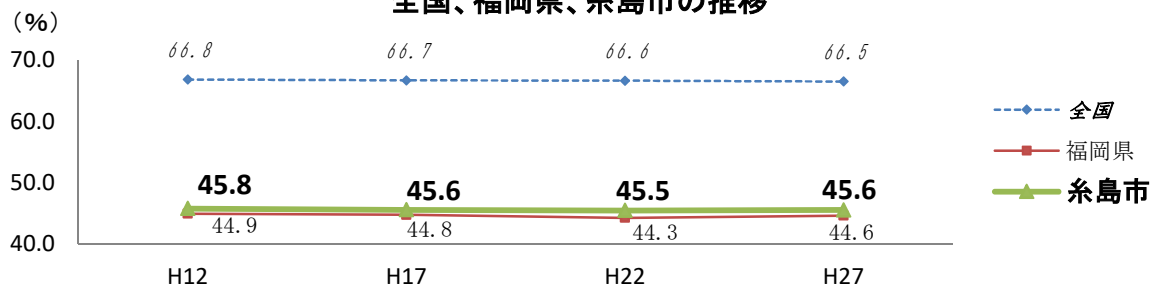
林野面積割合（総面積当たり）＝林野面積÷総面積

【林野面積：9,826ha、総面積：21,570ha（平成27年・糸島市）】

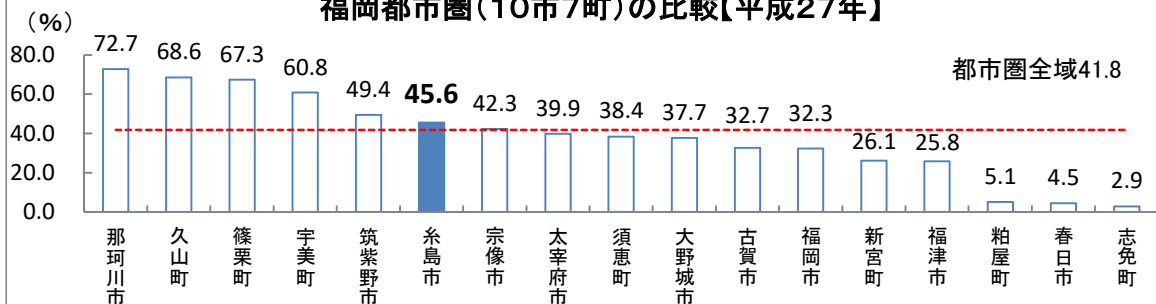
※全国の総面積は、北方四島及び竹島を除いて算出。

資料：農林水産省大臣官房統計部「（世界）農林業センサス報告書」
国土交通省国土地理院測図部「全国都道府県市区町村別面積調」

全国、福岡県、糸島市の推移



福岡都市圏(10市7町)の比較【平成27年】



統計データ(グラフ) から見る市の動向

平成27年の糸島市の林野面積割合（総面積当たり）は、45.6%。平成12年以降で見るとほぼ横ばいとなっており、15年間で0.2ポイント減少している。

また、全国の66.5%と比べ20.9ポイント低く、福岡県の44.6%と比べ1.0ポイント高い。

福岡都市圏内では、全17市町のうち6番目に高い。

※福岡都市圏全域の林野面積割合（総面積当たり）は41.8%

※福岡都市圏10市7町の林野面積割合（総面積当たり）の単純平均は38.4%

(38) 河川の水質状況

2. 1 mg/l
(BOD 75%値)

指標の説明

「BOD値（生物化学的酸素要求量）」とは、水中の有機物などを微生物が分解するときに消費する酸素量のこと、値が大きいほど、水質汚濁が進行していることを示す。河川や工場排水の汚濁の程度を表す指標として用いられる。

なお、ここでは、県内の2級河川（県営河川）を対象として算出。また、75%値とは、年間観測データを良い方から並べた75%目の数値をいう。

指標の算出根拠 基礎データの資料

糸島市のBOD値＝市内の2級河川のBOD値（合算値）÷7河川

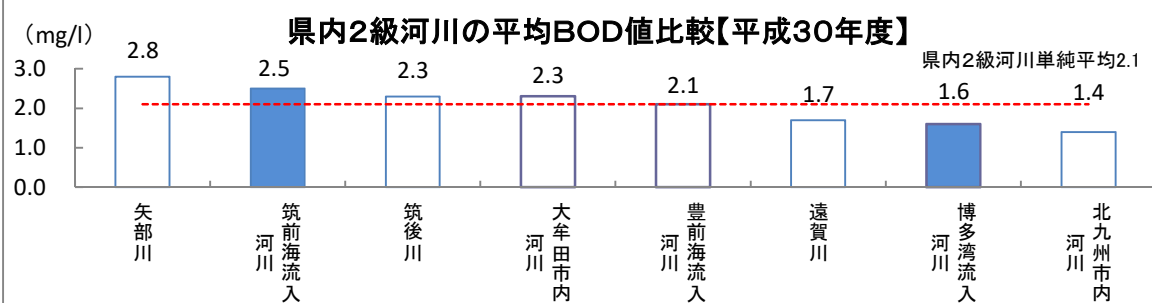
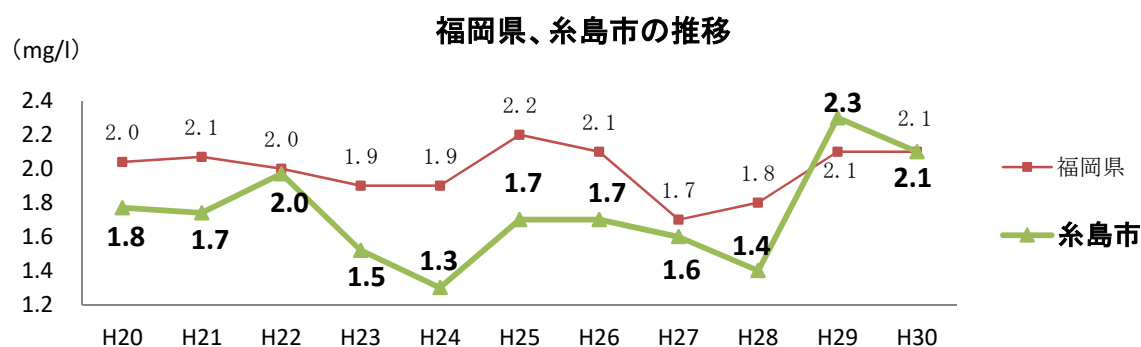
【筑前海流入河川（平成30年度・糸島市）】※単位：mg/l

桜井川：1.9、雷山川：3.7、雷山川（長野川）：1.8、一貴山川：1.6、加茂川：1.1、福吉川：1.8

【博多湾流入河川（平成30年度・糸島市）】※単位：mg/l

瑞梅寺川：3.1

資料：福岡県環境保全課「令和元年度版公害関係測定結果」



統計データ(グラフ) から見る市の動向

平成30年度の糸島市の河川の水質状況（2級河川のBOD値の平均）は、2.1mg/l。平成20年度以降、増減を繰り返している。平成20年度からの10年間で0.3mg/l増加している。

また、福岡県内の2級河川の平均値2.1mg/lと同じ。

県内2級河川の平均BOD値では、筑前海流入河川が2.5mg/l、博多湾流入河川が1.6mg/lとなっている。

(39) 生活系ごみ搬入量 **236.5kg** (人口一人当たり)

指標の説明

「生活系ごみ搬入量」とは、生活系ごみ（一般の家庭生活から出されるごみ）の収集量及び処理施設への直接搬入量の合算値で、環境行政の推進に係る指標として用いられる。

指標の算出根拠 基礎データの資料

生活系ごみ搬入量（人口一人当たり）＝搬入総量÷人口総数

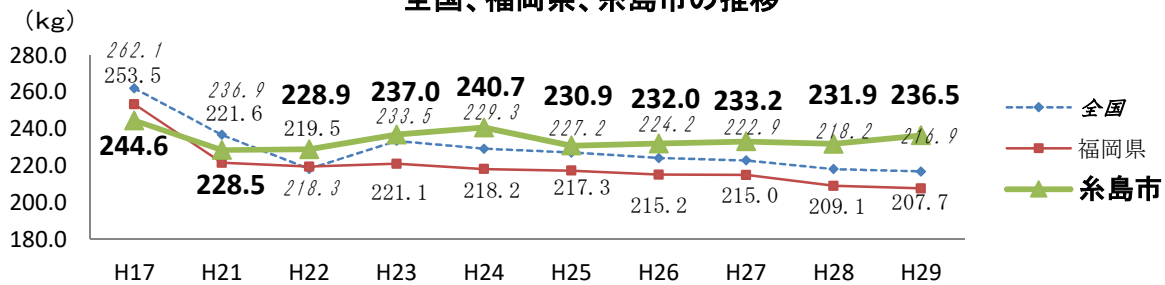
【搬入総量：23,783t、人口総数：100,554人(平成29年度・糸島市)】

資料：環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部

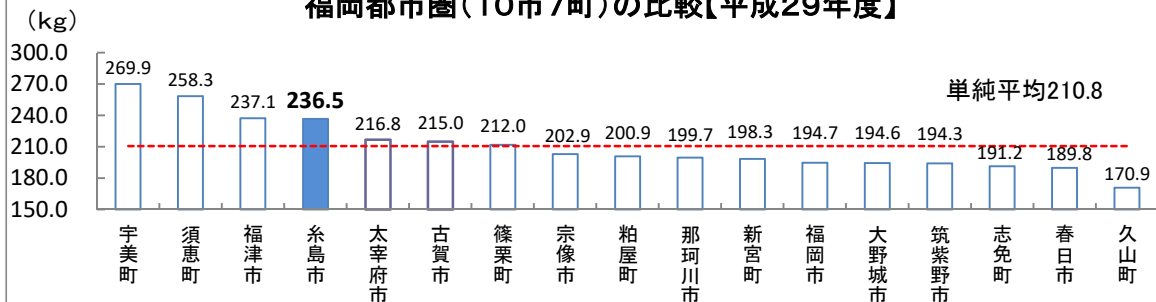
「一般廃棄物処理実態調査結果」

総務省自治行政局「住民基本台帳に基づく人口」（10月1日現在）

全国、福岡県、糸島市の推移



福岡都市圏(10市7町)の比較【平成29年度】



統計データ(グラフ) から見る市の動向

平成29年度の糸島市の生活系ごみ搬入量（人口一人当たり）は、236.5kg。増減を繰り返しているが、平成17年からの13年間で8.1kg減少している。

また、全国の216.9kgと比べ19.6kg、福岡県の207.7kgと比べ28.8kg多い。福岡都市圏内では、全17市町のうち4番目に多い。

※福岡都市圏全域の生活系ごみ搬入量（人口一人当たり）は200.8kg

※福岡都市圏10市7町の生活系ごみ搬入量（人口一人当たり）の単純平均は210.8kg

(40) ごみのリサイクル率

26.7%

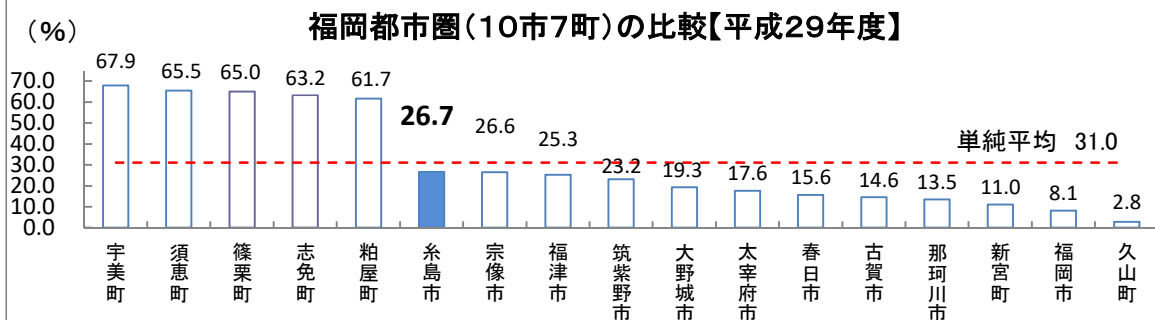
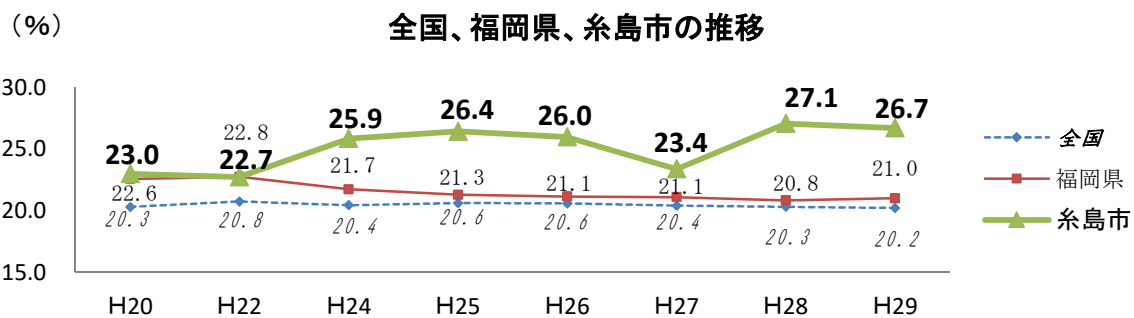
指標の説明

「ごみのリサイクル率」とは、ごみ処理量及び集団回収量の合計に対する直接資源化量、中間処理後再生利用量、集団回収量の合計が占める割合であり、環境行政に係る指標として用いられる。

一般的に、排出量（ごみ処理量）の抑制、直接資源化量及び再生利用量の拡大、集団回収量の拡大によってリサイクル率は向上する。

指標の算出根拠 基礎データの資料

① 直接資源化量+中間処理後再生利用量+集団回収量
ごみのリサイクル率 = $\frac{\text{①}}{\text{②}} \times 100$
② ごみ処理量+集団回収量
①8,690 t、②32,537 t 【平成29年・糸島市】
資料：環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部
「一般廃棄物処理実態調査結果」



統計データ(グラフ) から見る市の動向

平成29年の糸島市のごみのリサイクル率は、26.7%。平成20年から9年間で3.7ポイント増加している。

また、全国の20.2%と比べ6.5ポイント、福岡県の21.0%と比べ5.7ポイント高い。

福岡都市圏内では、全17市町のうち6番目に高い。

※福岡都市圏全域のごみのリサイクル率は14.9%

※福岡都市圏10市7町のごみのリサイクル率の単純平均は31.0%